

制定 平成 20 年 1 月 29 日

改定 平成 20 年 6 月 16 日

改定 平成 23 年 8 月 31 日

東京大学 産学連携本部

ELSESES 研究会規約

(名称)

第 1 条 本研究会の名称を東京大学 産学連携本部「ELSESES 研究会」という。

(目的)

第 2 条 本研究会は、超大規模電子構造計算手法「ELSESES」をナノテク・材料分野における研究開発基盤技術として発展させることを目的とし、その開発、実証および普及を行う。

(活動内容)

第 3 条 ELSESES 研究会は、前条の目的のために次の活動を行う。

- (1) ELSESES プログラムパッケージの開発
- (2) ELSESES の普及に関する活動
- (3) ELSESES の向上を目指した機能開発の実施
- (4) ELSESES に係る技術情報交換会の実施
- (5) 会員への ELSESES プログラムパッケージの配布
- (6) 上記成果を一元管理および著作権管理

(組織の構成)

第 4 条 ELSESES 研究会は、会員および事務局で構成される。

- (1) 本研究会に代表者をおく。
- (2) 会員は、本研究会の目的および活動に賛同し、ELSESES を導入・使用する者とする。

(幹事会)

第 5 条 代表者に任命された会員にて幹事会を設置する。

- (1) 幹事会に任命された会員の任期は 1 年で再任可とする。
- (2) 幹事会に任命された会員の過半数の出席によって成立する。
- (3) 幹事会は必要に応じて開催し、本研究会の運営に関して必要な事項を決定する。

(定例ワークショップ)

第6条 ELSESES 研究会はワークショップを年2回開催する。

- (1) 定例ワークショップは幹事会で企画し、会員が参加できる。
- (2) 定例ワークショップは ELSESES の普及および向上を目的とし、会員により大規模計算の研究状況に関する情報交換を行う。
- (3) ELSESES の最新技術開発状況の紹介
- (4) ELSESES を用いた解析結果・成果の発表

(研究成果の取扱い)

第7条

- (1) 会員がそれぞれ ELSESES プログラムパッケージのソースプログラムを用いた結果として得られる成果は各人のものとする。なお、その成果を得るために ELSESES に新規機能を付加、もしくは機能改良した場合、新規機能もしくは機能改良したプログラムは幹事会に提出する事を原則とする。ただし事情に応じて提出の猶予期間を設ける。その期間については提出する者と研究会代表者で決定し、幹事会に報告する。
- (2) 前項のプログラムを ELSESES プログラムパッケージの新規機能と認知するか否かは幹事会にて協議し判断する。
- (3) (2) 項において、幹事会で承認を得た新規機能は ELSESES プログラムパッケージに組み込まれる。
- (4) 会員がELSESESプログラムパッケージを用いた成果を公表する場合には、ELSESESプログラムパッケージを使用した旨明記し、当会が指定する参考文献を引用しなければならない。

(知的所有権) 研究会発足時

第8条 研究会発足時の ELSESES の知的所有権については以下の通りとする。

- (1) 研究会発足時のソースプログラムの著作権者は、藤原毅夫（東京大学）、東京大学元助手等3名である。
- (2) 会員は著作権者より ELSESES プログラムパッケージのソースプログラムの非独占的使用権および翻案権が許諾される。

(知的所有権) 研究会発足後の研究開発時

第9条 研究会発足後の研究開発時の ELSESES の知的所有権については以下の通りとする。

- (1) 会員による ELSESES プログラムパッケージへの新規機能の付加、もしくは機能改良したプログラムは、第8条(1)号の ELSESES ソースプログラムに対する二次的著作物と位置づける（以後、二次的著作物という）。
- (2) 二次的著作物を開発した会員は、著作権を保持する。

- (3) 第7条の(3)号により幹事会で承認を得た二次的著作物の著作権は、本研究会の他の会員に対し非独占的使用権および翻案権を許諾するものとする。
- (4) 会員は、原著作者のソースプログラムおよび、新規機能を追加もしくは機能改良したソースプログラムである二次的著作物を、本研究会に無断で第三者に対して譲渡もしくは貸与してはならない。

(知的所有権) 商用化

第10条 事業者から**ELSESES**プログラムパッケージの販売、サポートおよびメンテナンスの申出があった場合、事業者自身の**ELSESES**プログラムパッケージの譲渡不能な非独占的使用権、翻案権および複製権、並びに第三者のための**ELSESES**プログラムパッケージの譲渡不能な非独占的使用権（以下「本件使用権」という）の許諾を幹事会は協議する。

- (1) 会員の著作権者は、事業者への本件使用権の許諾を妨げない。
- (2) 会員の著作権者は連絡先の変更時には研究会に届けなければならない。連絡先が不明な場合、許諾料の支払いは不履行となる。
- (3) 商用化における許諾料の取扱いは、事業者と幹事会で協議し決定する。

(会費)

第11条 会員は下記の年会費を納めなければならない。

- (1) 会員は、幹事会の定める年会費を納入する。
- (2) 会員が、退会により本研究会の会員でなくなった場合、既に納入した会費は理由の如何を問わず返還しない。
- (3) 年会費は別に内規で定める。
- (4) 次の年会費は免除される(免除規定)。
- ・機関正会員として会費を納入する場合には、その機関からの入会が複数になる場合の、2人目以降の年会費
 - ・機関としての参加費として納入する場合には、その機関から支払われた研究会参加費が内規に定める一定額に達した場合の、当該機関所属者全員の年会費
 - ・本研究会会員が監督しかつ当該会員が提供するサーバーに限って、それを利用する学生会員の年会費.
 - ・特に幹事会が認めた場合.

(退会)

第12条 **ELSESES**研究会を退会しようとする会員は幹事会に対し、書面をもってその旨を届けなければならない。

- (1) 会員が退会する場合、会費に未納がある場合は、これを完済しなければならない。

- (2) 会員が退会する場合、ELSES 研究会は退会する会員の ELSES プログラムパッケージのソースプログラムの非独占的使用権および翻案権の許諾を解約するとともに、退会する会員が二次的著作物を有する場合は、その二次的著作物を ELSES 研究会代表者に譲渡するものとする。

(事務局)

第 13 条 ELSES 研究会の事務局は、特定非営利活動法人科学技術ソフトウェア研究センター事務局内におく。

- (1) 事務局は、本研究会で決定された事項に関する事務、本規約に定められた事務を処理する。
- (2) ELSES ソースプログラムの管理
- (3) 研究会運営に係る費用の管理

(規約の改定)

第 14 条 規約の改定は、幹事会にておこなう。

(会計年度)

第 15 条 本研究会の会計年度は、毎年 10 月 1 日に始まり、翌年の 9 月 30 日に終了する。

(会計報告)

第 16 条 事務局は当該年度の決算報告を幹事会において行い承認を得る。

(その他)

第 17 条 本契約に定めのないものは、別途幹事会にて協議の上決定する。

付則

- 1 平成 19 年度の「年会費」は徴収しない。
- 2 幹事会の任期、商用化の扱い等については平成 20 年 4 月に幹事会にて見直す。
- 3 この規約は、平成 20 年 1 月 29 日から施行する。